光市立室積小学校　令和３年度　現職研修助成事業（学校）研修概要

研究主題	聞くことを大切にしながら 自分の思いを表現する児童の育成 ～豊かなことばとのふれあいを通して～

1 はじめに

平成２７年度に文部科学省の指定を受けてから，昨年度まで外国語教育の研修を進めてきました。本年度は，外国語教育のよさを生かした国語科における「話す・聞く」ことの領域で研究を進めました。「話す・聞く」という，先行事例がほとんどない領域を研究するということで，１つの指導案を構想するのに，学年を超えて様々な議論が交わされました。実践を重ねていくことで，はじめは見えなかった「話す・聞く」という領域に対する見方を深めるよい機会になりました。

分からないからこそ，国語科の授業づくりについて，全職員で共通理解を図りながら研修を進めていきました。全職員による授業公開により。多くの先生方の授業を見合うことで，学習の指導法だけではなく，児童の意見の受け止め方，言葉掛けなど，授業改善に関わる貴重な情報を得ることができました。

全ての職員が同じ研修テーマのもと，同じベクトルを向いて，熱く研修に取り組んできた成果は，確実に児童の学びへ浸透しています。日本一へ向かって，児童は学ぶことが好きになっていると自負しています。

2 成果と課題

①　単元構想の工夫

教師が教えたい学習内容を形式的にさせて，一部の児童しか意欲的に参加しない授業になることはありませんか。児童全員が意欲的に学習を進めていくことが重要です。そこで，教師が教えたい学習内容を，児童が学びたい内容になるような単元を通した課題設定を各学年で工夫しました。主体的に学びたくなるような課題があることで，なぜ話すのか・聞くのかが明確になり，「話す・聞く」ことの必然性ができたと考えています。

・友達紹介図鑑を作ろう。（１年）	・相談にのってください（２年）
・山小屋で３日間過ごすなら（３年）	・ あなたなら，どう言う（４年）
・グッドリスナーになろう（５年）	・ もしも小学生ラジオ番組に呼ばれたら・・（６年）
・お店を開こう（はまゆう１）	・ 本祭りを開こう（はまゆう２）
・ぼくの　わたしの　すてきな帽子（２年図画工作科）	
・室小クリーン大作戦（６年家庭科）	

１年生の山本学級の実践では，「友達紹介図鑑を作ろう」と単元の最初に投げ掛けました。図鑑を作るためには友達の情報をたくさん聞き取らなければいけません。そこで「インタビュー」という学習活動を位置付け，そこでの「話し方・聞き方」を学習内容にしました。児童は，常によりよい「友達紹介図鑑を作る」ために学習を進めていくことができました。

６年生の本多学級の実践では，「もしも小学生ラジオ番組に呼ばれたら・・」と投げ掛け，「司会者」「レギュラー＝話し手と聞き手」「ゲスト＝話し手と聞き手」「ディレクター＝話合いを客観的に確認する立場」と４人１組で役割を交代で分担させました。ここでも「ラジオ番組づくり」という学習活動に適切な「話し方・聞き方」を学習内容にしました。こうした児童がやりたくなるような場面設定があることで，役になり切って生き生き活動することができました。

はまゆう２組の原学級の実践では，「本祭り」という単元を計画しました。あえて本にしたのは児童の実態が関わってきます。３名の在籍児童の中で，一番消極的な児童が読書を好んでいることを見取り，本祭りなら意欲的に活動できるのではないかと考えました。残りの２名の児童もそれぞれ目標は違いますが，本祭りという共通点でつながることで自然と関わる姿が見られました。正に特別支援学級だからこそ行える単元構成と言えます。

２年生の髙松学級の図画工作科の実践では，国語科の「ミリーのすてきなぼうし」から，「ぼくの　わたしの　すてきな帽子」という単元に繋げました。本で読んだ楽しい世界が現実になると考えただけでワクワクします。児童の考えた想像を具体化できるような材料も事前に準備することで，単元を通して意欲的な姿が見られました。

どの学年の研究授業においても，児童の生き生きした姿が見られたのは，これらの単元構想が魅力的だったからだと考えています。

②　見通しがもてる導入

①で述べた魅力的な単元構想は，１時間１時間の学習内容の積み重ねで成り立ちます。ここにも児童が主体的になれるような教師の働き掛けが多くありました。

・児童の振り返りから，本時の課題を見出す。（５年・６年）
・前時の学習を振り返り，本時の課題を見出す。（１年・２年・３年・４年・５年・６年・はまゆう１・２）
・ペアトークなどを行い，雰囲気づくりを行う。（３年・５年・６年）

５年生の柏村学級の実践では，前時の学習内容である「考えを広げるための話し合いの技」を確認することで，児童の思考が「まとめる時には，どんな技が使えるかな？」というめあてにスムーズに繋がっていきました。

４年生の岡本学級の実践では，前時の学習内容の上手くいかなかったところをあえて共有することで，「どうすれば上手に対話が進むのかな？」というめあてに繋がっていきました。

また，「話す・聞く」という領域の特性を生かしたペアトークの実践も多く見られました。目的は外国語の〈small talk〉同様に対話の続け方と学級の雰囲気づくりです。

３年生の磯部学級の実践では，「お話タイム」として，「もしも魔法が使えたら？」という話が盛り上がりやすい話題について話しました。「聞いたことの中から質問をする」というルールがあることで，児童は自然と聞こうと努力していました。この「お話タイム」があることで，話しやすい雰囲気が醸成され，本時の学習での意欲的な姿に繋がりました。

５年生の古川学級の実践では，「フリートーク」として，話題提供者の新聞の記事についてペアで話し合いました。提供者と全体という話し合いではなく，ペアで話し合うことで個々の会話量を保障することもできました。

③　１時間の授業づくり

本年度初めての領域への挑戦なので，学習内容を気付かせるために様々な学習方法にチャレンジしました。

・学習のパターン化（１年・２年・３年・４年・５年・６年）
・音声視聴（３年・４年・５年・６年）
・動画撮影，音声録音（３年・５年・６年）
・文字化資料の比較（１年・２年・３年・４年・５年・６年）
・作品作り（はま１・はま２・２年図工）
・調査活動（６年家庭科）

どの学級も学習のパターン化を行いました。これは，昨年度までの外国語教育の研修の財産です。学習方法をパターン化していき，学習内容を更新していきます。そうすることで，どの児童も無理なく学習内容に向かうことができます。外国語教育の研修で，必要以上に日本語を使わないようにするために活用した方法が国語科の研修でも生かされました。

３年生の田川学級の実践では，ペアのグループの話合いを客観的に見る→よさを伝える→自分たちが話合う→よさを聞く→振り返る　という学習パターンを繰り返しました。学習がパターン化しているので，教師が一つ一つ指示しなくても，次の活動を行う児童も多くいました。

外国語教育では，英語表現も大切ですが，それ以上に目線やリアクションなどの態度面が重要でした。先述した①単元構想や②めあてなどの手立ては，態度面へのアプローチが主とも言えます。国語科になったことで，ことばに着目した内容面へのアプローチの重要性が高まりました。

１年生の山本教諭と，２年生の住田学級の実践では，文字化資料を２つ用意し比較させました。２つの中の１つには学習内容が隠れています。児童は間違え探しさえすれば，学習内容が見えてくるという仕掛けです。特に，低学年の段階では比較対象があることで，教師が捉えさせたい部分が焦点化されることが分かりました。どちらのクラスの学習パターンも，デモンストレーション→２枚の比較→デモンストレーション→話合い　という，デモンストレーションを大切にした丁寧な指導で学習内容に迫りました。

５年生の古川学級と柏村学級の実践では，古川学級では映像視聴，柏村学級では文字化資料を扱い学習内容にアプローチしました。すると，どちらのアプローチにもメリット，デメリットがあることが見えてきました。映像を視聴することで，教師は聞き方のよさを見出したいのに，児童は音声ではなく態度面に目がいきました。文字化資料では，ことばに着目するしかありません。２つの授業を通して，態度面に着目させたいなら映像，内容面に着目させたいなら文字化資料ではないかということが見えてきました。そこで，５年生の後に授業を行った４年生の授業では，２つのよさを生かした提案が見られました。

４年生の岡本教諭の実践では，話合いした様子の録画を一手間加えて文字起こししました。先述した通り，文字化資料なので児童はことばに着目して考えます。さらに，自分たちの話合いの文字化なので，児童は以前の態度面までイメージできている様子でした。

④ UD の視点

児童の視点に立った手立てが，どの授業も行われていました。校内コーディネーターと話合い，どのような配慮が適切かを考えながら行いました。

・話合いに苦手意識がある児童への配慮（３年）
・選択させる（１年・２年・３年・４年・５年・６年・はま１・はま２）
・プレゼンテーションの文字量・大きさの配慮（３年・４年・５年・６年）
・学習のパターン化（１年・２年・３年・４年・５年・６年）
・見通しがもてるようなデモンストレーション（１年・２年）

３年生の磯部学級の実践では，特に話合いに苦手意識がある児童に電子メモをもたせて，そこに考えを書かせることで意見を反映させました。外国語活動や健康観察など，電子メモを日頃から使用しているので，安心して活動を行う児童の姿が見られました。

話合いの様子を視聴したり，文字化資料を見て学習内容を発見したりできるのは，その教科が得意な一部の児童でしょう。全ての児童が参加できるように，選択という手立てを行いました。

低学年では，２つの資料から選択させ，線を引かせました。中学年以降からは，資料は１つになっても線を引く活動は同じでした。線を引くというシンプルで誰でも行える活動が入ることで，自信をもってメインの活動を行うことに繋がりました。

はまゆう１組の西原学級の実践では，はまゆう祭りで売る商品の値段を選択させました。値段を付けるために，一般的に売られている値段を知ろうとします。この値段を知ることが，特別支援学級の児童にとって，生活に直結するとても大切な学習内容にもなります。

⑤ ICT の活用

一人一台のタブレット端末を使用した授業公開も多くありました。どの学級も，使うことが目的では無く，効果的に使えると教師が感じた時の手立てとして効果的に活用しました。

・プレゼンテーションで見通しをもたせる（５年・６年）
・音声録音や動画の撮影，共有（３年・４年・５年・６年）
・学習の蓄積（３年・４年・５年・６年）
・調査活動（６年・はまゆう１）

６年生の本多学級の実践では，ラジオ番組づくりということで，ボイスメモで児童が録音し，その様子を振り返りました。ビデオで音声を録音するよりも，ボイスメモでの録音はクリアでことばに着目しやすい様子でした。

５年生の柏村学級の実践では，児童の振り返りをタブレット上に蓄積していきました。メリットとしては，教師がノートを集めなくても一括管理できることです。デメリットは，児童のノートには残らないことです。室積小学校では，Google forms で振り返りを行うこともあるので，デメリットも踏まえた上で行うことが求められます。

６年生の梶原教諭の家庭科の実践では，課題をインターネットで調査させました。メリットとしては，多様な考えが表出できます。デメリットとしては，学習内容からそれることも考えられます。授業では，児童の多様な考えもラベリングされました。多様な考えをあらかじめ予想していた梶原教諭の教材研究の賜物だなと感じました。

3 主な実践記録

・ ６月 24 日（水） 全校授業 ６年 国語科「聞いて考えを深めよう.」 本多 真隆 教諭
・ ７月 １日（木） 研究授業 ６年 外国語科「Welcome to Japan.」 本多 真隆 教諭
参観者 室積中学校 教頭 平松 栄樹 様
室積中学校 教諭 岡田 誠 様

・　8月 3日（火）　全校研修　「人権教育の進め方について」
　　指導者　山口県教育委員会　人権教育課　弘中　達也　様
・　8月 6日（金）　全校研修　小中合同研修会
・　8月 18日（水）　全校研修　ゲートキーパー研修
・　8月 19日（木）　全校研修　国語科実践者の集いオンライン研修
・　9月 17日（金）　市教研授業　２年　図画工作科「かぶって　へんしん」　髙松　貴子　教諭
　　指導者　山口大学教育学部附属光小学校　池内　達也　様
・　9月 30日（木）　研究授業　自立活動「みんなではまゆう本祭りを開こう！」　特別支援学級　原　弘美　教諭
・　10月 20日（水）　研究授業　自立活動「正しく聞き取って，書こう」　奥原　京子　教諭
・　10月 26日（火）　研究授業　５年　国語科「たがいの立場を明確にして，話し合おう」　古川　俊裕　教諭
・　10月 28日（木）　研究授業　５年　国語科「たがいの立場を明確にして，話し合おう」　柏村　沙織　教諭
　　指導者　光市教育委員会　指導主事　加藤　剛　様
・　11月 5日（金）　研究授業　３年　国語科「山小屋で３日間すごすなら」　磯部　敦美　教諭
・　11月 9日（火）　研究授業　１年　国語科「ともだちのこと，しらせよう」　山本　夕子　教諭
　　指導者　光市教育委員会　指導主事　村上　享　様
・　11月 10日（水）　全校授業　４年　国語科「あなたなら，どう言う」　岡本　扶美子　教諭
　　指導者　梅光学院大学　准教授　香月　正登　様
・　11月 11日（木）　研究授業　生活単元学習「はまゆう祭り」　特別支援学級　西原　由起　教諭
・　11月 12日（金）　研究授業　３年　国語科「はんで意見をまとめよう」　田川　真由美　教諭
　　指導者　室積小学校　水品　英之　校長
・　12月 1日（水）　全校授業　２年　国語科「みんなで話をつなげよう」　住田　友宏　様
　　指導者　山口大学教育学部附属光小学校　田中　章憲　様
・　12月 16日（木）　研究授業　６年　家庭科「室小クリーン作戦」　梶原　真理子　教諭

4 おわりに

全ての授業を参観して一番感じたことは，どの学級からもあたたかい雰囲気が感じられたことです。どの授業においても「伝えたい」「聞きたい」という思いをもち，様々な相手とコミュニケーションをとることを楽しんでいました。これは，室積小学校が外国語教育の研修を継続してきた成果です。また，国語科の「話す・聞く」領域を研修していく中で、全学年の授業研究で行った学習のパターン化や導入のペアトークなど外国語教育の手立てを活用できる場面が多くありました。学習方法をパターン化していき，学習内容を更新していく手立てです。必要以上に日本語を使わないようにするために活用した手立てが、国語科の研修でも生かされました。ペアトークは外国語科で行っていた〈small talk〉を国語科でできる形にアレンジすることで，外国語同様に楽しい雰囲気をつくることができました。国語科にシフトチェンジしても，財産として大切にしていきます。

全校授業としては，各学年ブロックからそれぞれ１つずつ，計３本を実施しました。その他の公開授業に関しては，自由参観とし，感想や気付き等を授業者に伝えました。振り返りの際に出た意見をもとに，次の研究授業を考えていきました。そうすることで，学校全体で国語科の「話す・聞く」領域への理解を深めていきました。

また，今年度も，光市教育委員会から，加藤指導主事，村上指導主事に，複数回にわたって来校していただき，ていねいな助言をいただくことができました。また，梅光学院大学から香月先生，山口大学教育学部附属光小学校から田中先生・池内先生を招聘し，ご指導いただきました。香月先生から，「学習の基本は『聞く』です。」と言われた時には，行ってきたことが報われたようで，とても安心しました。本当に多くの方々に感謝申し上げます。この取組を確かなものとしていくために，今後も研修に真摯に取り組んでまいります。